

## 人材育成講座の開催と今後のあり方

### 1 人材育成講座のねらい

認知高齢者の増加に対応し、地域での支え合いを実践できるボランティア人材を育成する。

### 2 テキスト作成の工夫

- ① データで見える化（国、札幌市の現状と課題を整理）
- ② 認知症の正しい理解を進めること（分かりやすさに配慮）
- ③ 家族支援の必要性と認知症カフェなど地域支援の具体例を提示
- ④ 各種サービスの解説や市内の認知症関係相談窓口を一覧に（資料として活用）



### 3 講座の開催概要

講座は、「認知症に対する基本的な知識を身につけること」「認知症の人やその家族の方に対するボランティアを実践すること」を念頭に、テーマに沿った講師を設定して開催した。参加者合計 49 名

#### ■人材育成講座の開催概要

開催日時	テーマ・講師	会場	参加者数
第1回 11月20日 18:00~21:00	★第1講 「認知症とは何か～医学的見地から学ぼう～」 ○講師 医療法人社団豊生会本部 地域連携部認知症専任 長井卷子  ★第2講 「私たちにできることは何か～ボランティアの立場から学ぼう～」 ○講師 白石まちづくりハウス運営委員 ・認知症ボランティア 覚知由美	白石まちづくりハウス (札幌市白石区平和通3丁目北3-1 葵ビル1階)	13名
第2回 11月22日 13:30~16:30	★第1講 「認知症とは何か～医学的見地から学ぼう～」 ○講師 医療法人 北海道家庭医療学センター 栄町ファミリークリニック 副院長 北山 周  ★第2講 「私たちにできることは何か～ボランティアの立場から学ぼう～」 ○講師 白石まちづくりハウス運営委員 ・認知症ボランティア 覚知 由美	日の丸会館 (札幌市東区北41条東14丁目)	22名
第3回 12月4日 9:30~12:30	★第1講 「認知症とは何か～医学的見地から学ぼう～」 ○講師 医療法人社団豊生会本部 地域包括ケア推進部地域推進主幹 長井卷子  ★第2講 「私たちにできることは何か～ボランティアの立場から学ぼう～」 ○講師 NPO法人ホームヘルパーノア代表 澤出桃姫子	もみじ台管理センター (札幌市厚別区もみじ台北7-1-1)	14名

注)講師名は敬称略

### 4 受講者アンケート結果

#### (1) 参加ルート

「所属団体の勧めで」29.7% 「その他」24.3%  
 「知人から」「チラシ」各 18.9%

#### (2) 参加の年代

「60歳代」が32.4% 「50歳代」24.3%  
 「70歳代」16.2% 中高年主体の参加

#### (3) 講座の理解度

講座の前半（第一講座）は、「よくわかった」「わかった」が合わせて約97%と高い評価

第二講座は「よくわかった」「わかった」が7割強にとどまった。事例などのレジメがなく、今後、配布資料に工夫が必要とされる結果

#### (4) 講義を聞いての感想

合計で「役立つ情報が得られた」56.8%、「継続的に認知症に対する理解を深めたい」48.6%、「認知症の理解が進み、自分も支え合いに参加したい」43.2%の順

#### ■講座をどこで知ったか

回答項目	人数	割合
知人から	7	18.9%
所属団体の勧めで	11	29.7%
ウェブサイトを見て	3	8.1%
チラシを見て	7	18.9%
その他	9	24.3%
無回答	1	2.7%
計	37	

#### ■講座の理解度

理解度	（第一講座）			
	白石MH	栄町FC	もみじ台	全会場
よくわかった	63.6%	52.9%	66.7%	59.5%
わかった	36.4%	47.1%	22.2%	37.8%
少しわからなかった	0.0%	0.0%	11.1%	2.7%
難しかった	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	0%	0%	0%	0%

#### ■参加者の年代

年代	人数	割合
30代	4	10.8%
40代	5	13.5%
50代	9	24.3%
60代	12	32.4%
70代	6	16.2%
計	37	

#### （第二講座）

理解度	（第二講座）			
	白石MH	栄町FC	もみじ台	全会場
よくわかった	72.7%	35.3%	33.3%	45.9%
わかった	18.2%	29.4%	33.3%	27.0%
少しわからなかった	9.1%	5.9%	0.0%	5.4%
難しかった	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	0.0%	29.4%	33.3%	21.6%

#### ■講座を聞いて

感想	白石MH	栄町FC	もみじ台	全会場
役立つ情報が得られた	54.5%	58.8%	55.6%	56.8%
日頃の活動に役立った	45.5%	17.6%	33.3%	29.7%
スキルアップにつながった	27.3%	23.5%	33.3%	27.0%
他の参加者との交流が図られた	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
抱えていた問題・不安の解消につながった	18.2%	0.0%	11.1%	8.1%
認知症の理解が進み、自分も支え合いに参加したい	45.5%	47.1%	33.3%	43.2%
継続的に認知症に対する理解を深めたい	54.5%	58.8%	22.2%	48.6%
その他	9.1%	5.9%	33.3%	13.5%

(5) ボランティア体験

認知症の人や家族に対するボランティア体験について、「参加してみたい」45.9%、「参加したくない」24.3%。「無回答」21.6%と若干のためらいが。

■認知症ボランティア体験への興味

	白石MH	栄町FC	もみじ台	全会場
参加してみたい	63.6%	41.2%	33.3%	45.9%
参加したくない	27.3%	17.6%	33.3%	24.3%
その他	9.1%	5.9%	11.1%	8.1%
無回答	0.0%	35.3%	22.2%	21.6%
計	100%	100%	100%	100%

5 今後の講座のあり方とフォローアップ

(1) 認知症サポーターの現状

札幌市の認知症サポーターは下表のとおり着実に増えているが、実際の活動に結びつく例はあまり聞かれない。

■札幌市の認知症サポーター等の数

メイト（指導者）	サポーター	合計
1,058名	38,824名	39,882名

H25.12.31 現在 1人あたり高齢者 10.6人

※全国 4,427,745名 一人あたり高齢者 7.0人

(2) 他都市の認知症サポーターのフォローアップ事例

自治体名	活動内容
京都府綾部市 三段階ステップアップ講座	<ul style="list-style-type: none"> <li>受講者に年2回ニュースレターを提供。ボランティア報告をフィードバック（定期的情報提供）</li> <li>高齢福祉全般の知識を学ぶシルバーサポーター養成講座や実践者を養成するゴールドサポーター講座を開催。修了者が傾聴ボランティアや生活支援員、認知症予防教室の補助員等に（ステップアップと実践）</li> </ul>
熊本県菊池市 あみの目に広がる見守りシステム	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内すべての小中学校区で養成講座を開催。見守り協力者であることを示す「大きなオレンジリング」を銀行、商店、薬局、新聞販売店が掲示（見える実践活動）</li> <li>指導者役のキャラバン・メイト全員が班単位に活動。サポーターと連携し、市内を見守る体制を構築</li> </ul>
静岡県 富士宮市 地域力で個別支援を実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別支援の実現のため、市民を民・産・学・官の対象別に講座を開講、支え合う地域力向上を目指す。</li> <li>医療職、介護職、認知症の家族や民生委員、地域住民などの多彩な講師。講座内容を受講対象者ごとにマッチさせ、講座と同時に見守り協力を要請するなど行動・実践につながる仕組みを用意（実践先を提供）</li> </ul>

**3 事例の共通項** ⇒ 継続的な情報提供や段階的にステップアップする人材の育成方法、実践先の提供など、いずれも即活動に結び付けている点が特徴

(3) フォローアップの必要性と実践活動につなぐ工夫

- ① 人材育成講座は、分かりやすく、役立つ情報が得られたなど、詳細なテキストで認知症に対する理解が進んだと評価。
- ② 受講者の約5割が「継続的に認知症に対する理解を深めたい」と希望。
- ③ 一定の基礎知識に加えて、個人差の大きい認知症の特性や様々な困難を抱えている家族支援には、知識やスキルを継続的にステップアップしていく講座が必要（1回の講座のみでは個人の具体的なサポートは困難）
- ④ 「認知症の理解が進み、自分も支え合いに参加したい」が4割超。この思いを実践につなぐ活動のコーディネートが課題
- ⑤ ボランティア先の開拓は、個人情報の問題もあり、認知症カフェや施設などに限られ、個人宅でのボランティア実践は非常に困難（ボランティアの組織化と支援を受けたい人への情報提供が課題）。
- ⑥ 見守りや声掛けのレベルから、外出時の同行や話し相手、家族の支援などボランティアの態様は幅広い。
- ⑦ 気軽に一緒にイベントに参加する、見守りを宣言するなどの一歩を確実に踏み出せる方法からスタート、徐々に高度な支援に（ステップアップの仕組みが必要）

